

7 公害苦情発生状況

令和元年度に受け付けた公害苦情は183件であった。このうち、典型7公害(大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下)に係るものが17件であった。内訳は表7-1のとおりであった。

表7-1 各公害の件数

| 分類 | 公害の種類 | 件数 |
|-------|-------|-----|
| 典型7公害 | 大気汚染 | 0 |
| | 水質汚濁 | 1 |
| | 騒音 | 8 |
| | 振動 | 2 |
| | 悪臭 | 5 |
| | 土壌汚染 | 0 |
| | 地盤沈下 | 0 |
| | 小計 | 16 |
| その他 | 不法投棄 | 139 |
| | その他 | 28 |
| | 小計 | 167 |
| 合計 | | 183 |

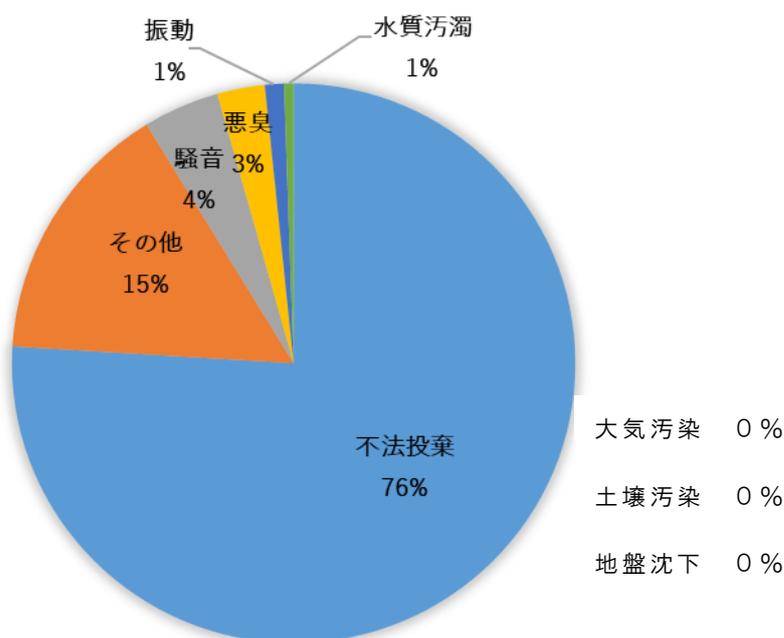


図7-2 各公害別割合

典型7公害のうち、苦情件数が最も多かったのは「騒音」で8件であった。「騒音」の原因は、機械・重機の使用によるものが5件、工事関係が2件、道路関係が1件である。次に多かったのが「悪臭」の5件であり、農業関係が4件、排水関係が1件であった。「振動」の苦情は2件で、原因は道路関係が2件である。「水質汚濁」は1件のみであり、原因は不明であった。「大気汚染」「土壌汚染」「地盤沈下」については苦情がなかった。

典型7公害以外について、不法投棄が139件、その他が28件であった。不法投棄の139件のうち、130件が家庭ごみを含む投棄によるもので割合としてはかなり多かった。その他の28件の内訳はすべて野焼きであった。

表7-2 年度別苦情件数

| 年度 | 件数 |
|--------|-----|
| 平成16年度 | 32 |
| 平成17年度 | 113 |
| 平成18年度 | 95 |
| 平成19年度 | 120 |
| 平成20年度 | 83 |
| 平成21年度 | 77 |
| 平成22年度 | 57 |
| 平成23年度 | 69 |
| 平成24年度 | 49 |
| 平成25年度 | 44 |
| 平成26年度 | 50 |
| 平成27年度 | 16 |
| 平成28年度 | 53 |
| 平成29年度 | 189 |
| 平成30年度 | 166 |
| 令和元年度 | 183 |

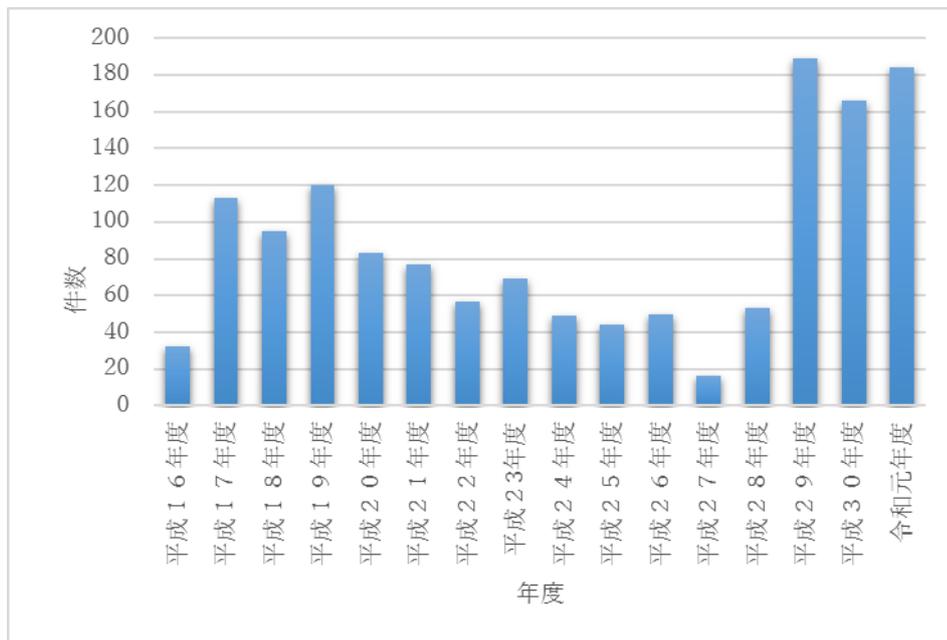


図7-2 苦情件数の推移

過去15年間の年度別苦情件数は、表7-2及び図7-2に示す。

近年の動向として、平成19年度から平成28年度まで苦情件数は減少傾向にあった。しかし、平成29年度は過去最大の苦情件数となった。これは監視員によるパトロールの強化により不法投棄の発見件数が増加したためである。

令和元年度の苦情件数は183件となり、そのうち139件が不法投棄であった。前年度と比べ不法投棄の件数はほぼ同じだが、2件の増加となった。監視体制の強化だけでなく、市広報誌及びホームページ等での市民への周知の徹底に努め、苦情件数の減少につなげていきたい。